

保育・教育を振り返ってみましょう

保育・教育を振り返ってみましょう

「幼児期に育てたい望ましい姿」で子供たち一人一人の育ちを確認していきましょう。

3つの柱	子供たちに身に付けさせたい3つの力	<input type="checkbox"/> 健康な心と体で生活できる力 <input type="checkbox"/> 相手や状況が分かり、楽しく活動し、協力できる力 <input type="checkbox"/> 自分で考え、意欲的に遊び、学べる力			
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・生活に必要な衣服の着脱、食事、排泄などが自分で行える。 ・早寝、早起き、朝ごはん、十分睡眠をとる習慣が身に付いている。 ・食事のマナーが身に付いている。 ・元気よくあいさつや返事をする。 ・全身を十分に動かして遊ぶことを楽しむ。 ・自分の健康に関心をもち、病気の予防などに必要な行動をする。 ・自分の身の回りの整理整頓を進んでやり持ち物の管理をする。 ・園生活において次の活動などの見通しをもち、行動する。 ・分からないことを尋ねようとする。 ・いろいろな遊びを楽しみながら、最後まで物事をやりとげようとする気持ちをもつ。 ・みんなで遊んだ後の片付けや整理整頓をする。 ・生活のための約束を守ることの大切さや意味を理解し守る。 ・手指の器用さや操作のために、手指を使った様々な活動に楽しんで取り組む。 ・危険な場所や遊び方を理解し、気を付けて行動し大きな怪我につながらないよう自分の身体は自分で守る。 ・交通規則を理解し守る。 				
	人との かかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・集団生活の中でよいこと悪いことの判断基準が作られ考えて行動する。 ・自分の思いを相手に伝えるように言葉で話す。 ・相手を傷つけるような言葉は使わず、丁寧な言葉で自分の思いを相手に分かるように伝える。 ・話をしている人の顔を見て、落ち着いて最後まで話を聞く。 ・相手の話を聞き理解し、言葉で伝え合う。 ・仲間の中の一人としての自覚が生まれ、自分への自信と友達への信頼をもつ。 ・様々な葛藤を繰り返しながら折り合いを付ける体験をし、自分の気持ちを調整する力をもつ。 ・友達のよいところやうまくできたことは言葉に出してほめる。 ・うまくできなくても、友達が一生懸命やったことを認める。 ・相手の思いを受け入れる。 ・自分とは異なる思いや考えを認める。 ・高齢者や地域の方々と喜んでかかわり、親しみをもつ。 ・小さいクラスの友達に対して優しく接したり話しかけたりする。 ・集団生活に必要な約束、きまりを理解し守る。 ・当番活動などを通して人の役に立つことを喜ぶ。 			
		学び	<ul style="list-style-type: none"> ・季節の移り変わりや自然の事象に気付き興味・関心をもつ。 ・生活の中で、美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。 ・様々な教材、道具を必要に応じ使い、工夫したり、作ったりして遊びを深める。 ・もっている知識を様々、使って遊び、遊びを膨らませ楽しむ。 ・自分たちで相談して協力しながら活動する。 ・栽培や飼育活動を通して生命の尊さに気付く。 ・様々な音、形、手触り、動き、味、香りなどに気付いたり感じたりして楽しむ。 ・絵本や物語に親しみ、想像する楽しさを味わう。 ・遊びや生活に必要な言葉を状況に応じて使う。 ・感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。 ・身の回りの出来事や職業など社会の営みに興味・関心をもつ。 ・身近な環境に自分からかかわり、発見を楽しんだり、考えたりする。 ・色、数、量、図形、文字、時計などに興味・関心をもつ。 ・様々な動きを取り入れて全身を十分に動かして遊ぶ。 ・いろいろな食べものに興味・関心をもつ。 		

第2章 保育・教育の実践において重視する点



1 幼児期の指導において重視する点

重視する点1 主体的な活動、協同的な遊び

小学校教育の学習の土台となる力の育成をめざしていくとき、主体的な活動としての遊びが思考力などの発達の基礎を培う重要な学びになることから、子供たちの興味や関心を大切にしながら、総合的に生活や学びの基礎となる力を身に付けていくようにすることが重要になります。小学校入学前の5歳児については、子供同士が、共通の目的や挑戦的な課題など、一つの目的を作り出し、協力、工夫して解決していく活動を「協同的な遊び」として位置付け、その活動を取り入れていくことが大切です。

重視する点2 見る、聞く、話す力の育成

周りの友達の様子を見たり、自然を観察したり、絵本などを見たりすることも学びにつながっていきます。そこで、いろいろな遊びや経験の中で、少しずつ「見る力」を育てていくことが大切になります。そこから、外の世界に対する好奇心が生まれ、探索し、知識を蓄えるための基礎が形成されていきます。日常の様々な場面で、友達と伝え合ったり、みんなで話し合ったりする楽しさを味わうことができるよう、保育士・教員は言葉のもつ意味や機能を子供たちに伝えていきます。集団の中でも聞く力や話す力を育てていくために、全員で座って話を聞く時間や回数、場面を徐々に増やしていくことが重要になります。

重視する点3 計画性・柔軟性のある環境・援助

保育・教育は、予想される子供の姿、時期によって期待される子供の育ち、あるいはこう育ててほしいという保育士・教員の願いを盛り込んだ、年、期、月の長期的な計画と、子供の生活に即したより具体的な週、日の短期的な計画を組み合わせで行われています。これらは、子供の実態に照らし合わせながら、環境構成を考えて再構成をしていくことが重要です。環境構成や援助には、「見通しをもった計画性のある環境・援助」と、子供の姿に対応する「柔軟性のある環境・援助」の両方の視点をもつことが重要になります。



2 小学校入門期の指導において重視する点

重視する点1 基本的な学習習慣・生活習慣を組み込んだ学習

子供たちの就学前の体験、経験は様々で、基本的な生活習慣が身に付いている様子についても一人一人違ってきます。そこで小学校生活を始めるにあたっては、丁寧にやり方や方法を教えながら、学習習慣や生活習慣が定着するよう指導していくことが大切になります。基本的な学習習慣については学校全体で方針を定めて、6年間の見通しをもって、計画的に、手立てを決めて、段階的に指導することが重要です。

重視する点2 見る、聞く、話す力の育成

改訂された学習指導要領では、児童の思考力・判断力・表現力などを育む観点から、基礎的・基本的な知識・技能の活用を図る学習活動を重視するとともに、言語に関する能力の育成を図る上で必要な、「言語活動」の充実が重要であることが示されています。「言語活動」の充実の基盤となるものは、言語に関する能力です。小学校の入門期において「話すこと・聞くこと」については、国語科、生活科をはじめとして教科等の学習や集団生活を送る上で欠かせない力であり、学校生活を円滑に進めていくための基礎的な能力です。

重視する点3 柔軟性のある環境づくり

「集まる場」を組み込んだ学習形態を取り入れることは幼稚園・保育園・こども園の生活での「集まってお話を聞いた距離」を活かすことにつながり、子供に安心感をもたせることができます。また、授業展開を15分単位で考え、それを組み合わせて30分間の授業も取り入れるようにして、活動にリズムをもたせたり、集中力を高めたりする工夫も考えられます。その際には年間の指導計画に基づいた適切な学習評価の実施など、計画的な授業の実施が重要になります。授業形態以外に教室の前面や側面の掲示物などについても集中力を途切れさせないようなものにしていくことや、絵と文字で表記し、視覚的に分かるようにするなど、学校全体での環境づくりを工夫することが大切になります。さらに、校内の学級への支援体制は入学当初には柔軟に考えて計画的に進めていくことが大切です。



3 小学校への円滑な接続に向けて重視する連携

台東区には小学校に併設されている公立幼稚園が多くあります。また、公立・私立を問わず、地域の幼稚園や保育園との交流活動を日常的に行っている小学校も次第に増えてきています。教育委員会が推進している「連携の日」をきっかけとして、幼児と児童の交流や、幼稚園・保育園・こども園の保育士・教員と小学校の教員の連携・交流が広がっています。

幼児と児童の交流

遊びを通して学ぶ幼児期の保育・教育活動から、教科の学習が中心の学校教育への滑らかな接続のため、幼稚園・こども園・保育園と小学校はさらに連携を強化していく必要があります。台東区においても、幼稚園によっては5歳児が毎年小学校を訪問して、5年生と一緒に給食を食べる「交流給食」を実施するなど、連携や交流活動が増えてきています。また、3学期には、小学校の教室で5歳児が体験授業を受けたり、1年生に学校を案内してもらったりするなどの取組が継続的に行われています。「興味・関心をもつ」、「慣れ親しむ」、「期待感を高める」など、段階的な交流計画を立て、5歳児後半から園と小学校で交流や連絡を密にしていくことで、幼児にとっては1年生の児童への憧れを抱くことができ、小学校生活に慣れ親しみ、入学への期待感を高めることにつながっていきます。

幼稚園・保育園・こども園の保育士・教員と小学校教員との連携

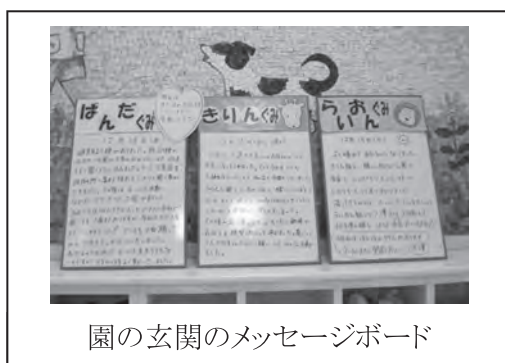
幼稚園教育要領ならびに保育所保育指針には、「小学校教育との円滑な接続のため、幼児と児童の交流の機会を設けたり、小学校の教師との意見交換や合同の研究の機会を設けたりするなど、連携を図るようにする」、「小学校の児童との交流、職員同士の交流、情報共有や相互理解

など小学校との積極的な連携を図るよう配慮する」とあります。幼稚園・保育園・こども園の保育士・教員と小学校の教員が、意見交換や合同研修、保育参観や授業参観などを行うことにより、子供の発達を長期的な視点でとらえることが大切です。それぞれの保育・教育の内容、指導方法などについて相互理解を図ることで、幼児が小学校生活に適應できるよう保育や指導の改善、充実を進めていくことができます。

保護者との連携・理解啓発

幼児の生活は、家庭を基盤として地域社会を通じて次第に広がりをもつものです。家庭との連携を十分に図るなど、幼稚園・保育園・こども園における生活が家庭や地域社会と連続性を保ちつつ展開されるようにすることが大切です。幼稚園・保育園・こども園では、それぞれの教育内容を保護者、地域へ発信するということをととても大切にしています。保護者に伝えたいこと、知ってほしいことなどを掲示板に表示することなどは多くの園で工夫して実施されています。幼児の成長や発達の姿と、保育・教育にあたる保育士・教員の記録やコメントなどをプライバシーなどに十分配慮した内容で掲示するなど、保護者と共有できるように工夫をしている園もあります。保護者に対して、「今はこんなことに取り組んでいます。」というものを示して、伝えていくということが幼稚園・保育園・こども園、そして保護者の両者に安心感と信頼感を生み、また、家庭への保育・教育の連続性へとつながっていきます。

また、家庭における子供とのかかわり方などについても、日頃から保護者と連携をとりながら伝えていくことが大切です。例えば絵本や物語の読み聞かせなどは、多くの園で保護者がかかわり、取組が行われています。園で絵本を貸し出すことと併せて、家庭で絵本を読んでもらう楽しみや、嬉しさの積み重ねが子供たちの心の栄養となり、豊かな心を育てていくことを伝えていくことも大切です。



園の玄関のメッセージボード



4 小学校入学までに一人でできるとよいこと

台東区の小学校では、入学に向けて、前年度の2月、「新1年生保護者会」を開催しています。ここでは、保護者に向けて小学校入学に際しての不安を取り除くための具体的な説明を行っています。その際には、「小学校入学までに一人でできるとよいこと」などという表現で、小学校における集団生活を営んでいくとき、必要になる技能、能力、判断力、表現力などを示してあることが多く見られます。これらの内容について台東区の小学校の実態を集約して、必要かつ十分な内容と判断できるような項目をしぼって示しました。それぞれの園においてもこの内容について保育士・教員が認識と理解をしていき、同時に、保護者との連携の中で、互いに共通理解をしていくことで、小学校入学に向けて子供たちの育ちについて、準備をしていくことができるようになります。

「小学校入学までに一人でできるとよいこと」

「小学校入学までに一人でできるとよいこと」

「生活」

規則正しい生活

- ☐ 排便の習慣がついている
- ☐ 起きる時刻、寝る時刻を守って早寝早起きする（睡眠時間は9～10時間程度）
- ☐ 朝食を毎日とる
- ☐ 元気にあいさつができる
- ☐ 名前を呼ばれたら「はい」とはっきり返事をする
- ☐ 外（安全な場所）での遊びや体を動かす遊びを楽しむ

食事

- ☐ 「いただきます」「ごちそうさま」が言える
- ☐ 正しい姿勢でマナーを守って楽しく食べる
- ☐ 箸が正しく持てる
- ☐ 嫌いなものも一口は食べ、食わず嫌いはしない、偏食せずに食べる
- ☐ 自分で食べる量がわかって、20分～30分ぐらいで食べ終わる

身のまわりのこと

- ☐ 自分で洗顔、手洗い、うがい、歯磨きや鼻をかむことができる
- ☐ ハンカチ、ちり紙を携帯する
- ☐ 洋服や下着の着脱ができて、たためる
- ☐ 身のまわりの整理整頓や片付けができる
- ☐ 和式トイレが使える
- ☐ 紐がかた結びで結べる
- ☐ 傘の開閉と後始末ができる
- ☐ ランドセルの開け閉め、道具の出し入れ、背負う、おろすができる
- ☐ 寝る前に翌日の持ち物を準備する

安全

- ☐ 横断歩道の標識や信号の見方が分かる
- ☐ 走らず右と左に気を付けて歩ける
- ☐ 通学路が分かる
- ☐ 知らない人に話しかけられ、誘われてもついていかない
- ☐ 危険が迫ったときは大きな声を出すなど、助けを求めることができる
- ☐ 自分の名前、保護者の名前、住所、電話番号を正しくはっきり言え、知らない人には教えない

「人とのかかわり」

- ☐ してほしいことや困ったことなど伝えたいことをはっきり言う
- ☐ 話している人の顔を見ながら、落ち着いて最後まで話を聞く
- ☐ 友達と楽しく遊び、友達がいやがることはしない
- ☐ 約束や時間を守る

「学び」

- ☐ 自分の名前が生活の中で読めて、書ける
- ☐ 10ぐらいまで数えることができる
- ☐ 自分の手などを使って、右と左が分かる



第3章 幼児教育共通カリキュラムで重視する内容

教育委員会では幼稚園・保育園・こども園、学校、地域・家庭との連携をとりながら教育内容の充実に向けた取組を進めています。そして各種の教育課題についての啓発資料を作成してきました。これらの啓発資料の項目や内容については、「幼児教育共通カリキュラム」においても、幼稚園・保育園・こども園、小学校での取組を重視していくよう、6つの「幼児教育共通カリキュラムで重視する内容」として示しました。

幼児教育共通カリキュラムで重視する内容

- 1 規範意識の芽生えの育成
- 2 こころざし教育
- 3 食育
- 4 体力の向上
- 5 生活習慣・学習習慣の共通化・段階化
- 6 地域財産等の活用



1 規範意識の芽生えの育成

人間として尊重し合い協調して社会生活を営んでいくためには、守らなくてはならない社会のきまりがあります。そのきまりのうち、多くの人々が共有しているものが規範です。この規範を自分のものとしていくことが規範意識になります。生活や人とのかかわりを通して徐々に子供たちのなかに規範意識が形成され、きまりを守ることができるようになっていきます。幼児はきまりが大事であると思っても、必ずしもきまりを守ることができるとは限りません。遊びのきまりを分かっている、興奮すると忘れてしまったり、嫌になってしまい、守れなかったりすることがあります。そのとき、自分の欲求を無理に通してきまりを守らなかったために遊びが壊れてしまったり、仲間関係がくずれてしまったりすることを体験することになります。このような葛藤する場面を体験していくことで、すっきりしない気分や気持ちがわるいこと、恥ずかしい気分などを体験し、次第に自分の気持ちを調整し、自己統制、がまんができることの必要性を理解していきます。

規範意識の芽生えを培うには・・・

- 1 教師との信頼関係を培うこと
- 2 自己発揮が十分できるようにすること
- 3 人とのかかわりの中で折り合いを付ける体験を積み重ねること
- 4 人と気持ちよく生活したり遊んだりするにはルールや約束を守ることが必要ということ
を幼児自身が体験を通して納得できるようにすること

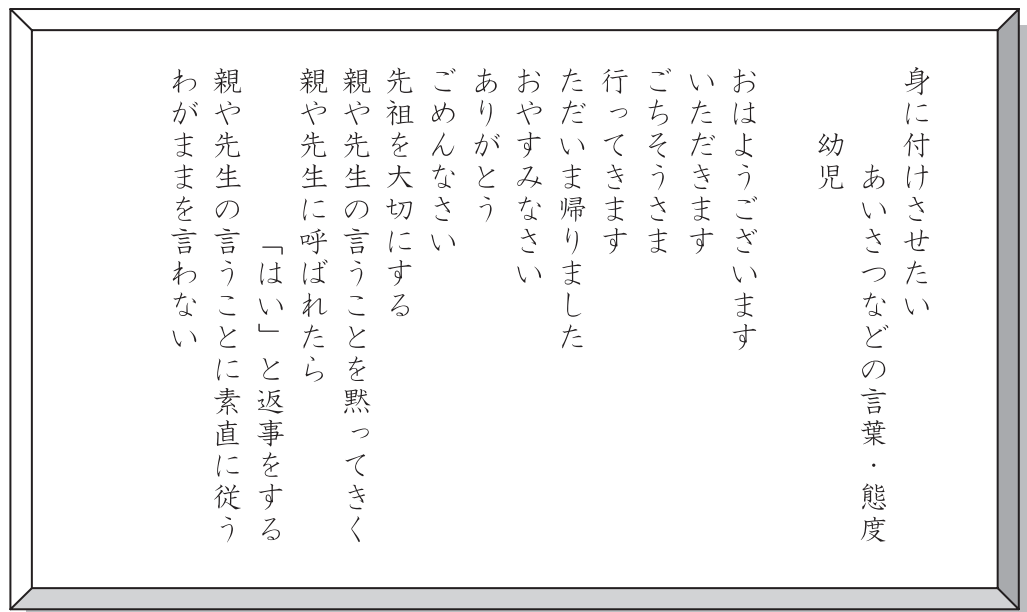
* 平成20年度台東区教育委員会教育課題研究委員会・幼児の規範意識育成検討委員会
資料「幼児の規範意識をはぐくむ ～規範意識の芽生えをとらえ、伸ばす教師の役割～」
より





2 ところざし教育

教育委員会の教育目標には、未来の日本を担うところざしと意欲を育むことが掲げてあります。「ところざし(夢・目標)」は、自立・自律・能動的な人間の源です。人として、「自分の人生はこうありたい」という心のもちようは、まさに「ところざし」と言えます。子供たちには、「ところざしと意欲」をもたせることが肝要です。教育委員会では「ところざし教育」を推進するために、小・中学生を対象とした、「ところざし教育副読本」と「教師用指導書」を配布しています。副読本に掲載された読み物資料には先人の人生の知恵があり、生き方のヒントがあります。長年にわたり人々に支持されてきた知恵には、時代がいかにも変わろうとも変わらない不易の教訓があります。子供たちに、家族や地域を愛する心を醸成し、友達や地域の人々と力を合わせて、「将来、社会や人のためになりたい」という地域や国の発展に貢献する高いところざしの根っこを育てていくことが重要です。



* 「ところざし教育副読本 教師用指導書」より



3 食育

平成17年に食育基本法が制定され、子供たちが食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができるよう、学校においても積極的に食育に取り組んでいくことが重要となっています。台東区教育委員会では、平成21年度は、教育課題研究委員会、「『食育』推進委員会」が「台東区の幼稚園・小学校・中学校のつながりのある楽しい食育」を作成いたしました。資料では、この6つの「食に関する指導の目標」にそって、「発達段階ごとの食に関する指導の目標と身に付けさせたい能力」を具体的に示しています。

6つの「食に関する指導の目標」

- 1 食事の重要性
- 2 心身の健康
- 3 食品を選択する能力
- 4 感謝の心
- 5 社会性
- 6 食文化に関する理解



小学校の栄養士のお話

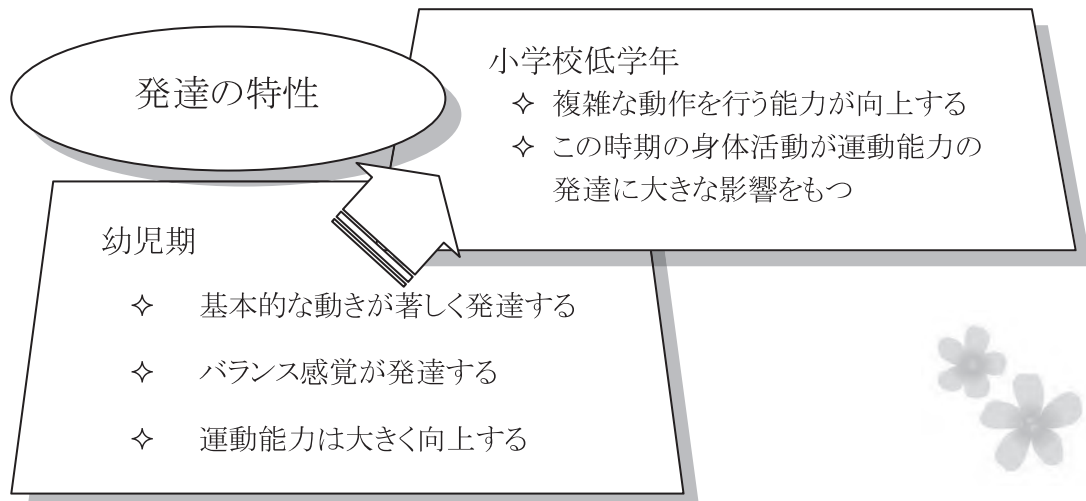
食に関する指導の目標	幼児期	小学校低学年
	先生や友達と食べることを楽しむ	好き嫌いをなくし、食生活のマナーなど基礎的・基本的な食習慣を身に付ける。
食事の重要性	みんなと食事をする楽しさを味わう。	食べ物に関心を持ち、食事の大切さが分かる。
心身の健康	食事の前後にする大切なことが分かり、適切な食行動をする。	いろいろな食べ物に親しみをもつ。
食品を選択する能力	いろいろな食べ物に興味・関心をもつ。	いろいろな食べ物の名前が分かる。
感謝の心	作ってくれた人を思い、食べ物を大切にす。	食に関しての感謝の気持ちを表現する。
社会性	食事の基本的マナーを知ったり、食事に必要な準備や片付けをやらうとしたりする。	食事の基本的マナーを身に付け、友達と楽しく食べる。
食文化に関する理解	季節の行事に参加して行事食を食べることを楽しむ。	行事や季節・旬の食べ物による料理があることを知る。

* 平成21年度教育課題研究委員会「食育」推進委員会 資料



4 体力の向上

近年、子供の運動に関する育ちについて、「転んでも手がつけない」、「腕をふってまっすぐ走れない」などの指摘がされています。子供の体力、運動の問題については、身近な運動に親しんでいくことを、幼児期から始めていくことが大切になります。幼児期から運動の習慣付けは、園での生活だけではなく、家庭生活においても楽しく運動をしていくことが重要になります。「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」によると、台東区を含めて東京都では全国平均値を下回っているという状況があります。幼児期からの発達特性をとらえて、走る楽しさや投げる楽しさを感じる遊びを段階的に幼稚園・保育園・こども園の保育・教育のなかに取り入れていくことが、小学校での走る力、投げる力などの向上に効果的に機能していきます。





5 生活習慣・学習習慣の共通化・段階化

小学校における集団生活の中で必要な、「生活習慣」と「学習習慣」を基に、約束、声、座り方、お弁当・給食、持ち物、整理整頓、時間を守る等について、その基本となるように幼児教育においての生活習慣・学習習慣を共通化して、段階的に身に付けていくように示し、家庭の理解と協力を得ながら台東区の幼児教育共通のものとして繰り返して指導をしていくことが大切になります。

生活習慣・学習習慣を共通化・段階化

- 1 あいさつ、言葉づかい
- 2 持ち物、片付け
- 3 時間を守る、見通しをもつ
- 4 話の伝え方、話の聞き方
- 6 人とのかかわり方
- 7 約束を守る
- 8 お弁当、給食



ロッカーの整理・整頓

「下町っ子 みんなの約束」

台東区の子供たちみんなが、「これは必ずできてほしい」という内容で精選した、「下町っ子 みんなの約束」(平成21年度教育課題研究委員会「下町っ子 10の約束」資料)を日ごろからの生活で心がけていくようにすることはその取組のひとつです。

下町っ子 みんなの約束

	幼稚園	小学校・低学年
あいさつ	へんじ	げんきにあいさつをします
言葉づかい	あいさつは げんきよくします	はっきりとへんじをします
片付け	つかったものはかたづけます	きちんとあとかたづけをします
ものを大切に	みんなのものもだいじにします	みんなのものもたいせつにします
時間を守る	はやねはやおきげんきに とうえんします	きめられたじかんをまもります
話を聞く	はなしはめをみて しっかりききます	ひのはなしをしっかりとききます
仲良く	ともだちとたのしくあそびます	みんなとなかよくします
約束を守る	やくそくや きまりをまもります	やくそくや きまりをまもります



6 地域財産等の活用

上野の山の芸術、浅草の大衆芸能、四季折々の伝統行事、そして、日々の暮らしに根ざした下町の生活文化など、台東区は、個性豊かな文化を育んできた都市です。様々な文化遺産、伝統芸能はもとより、長い歴史の中で培われてきた精神風土など、豊かな文化資源が台東区には存在します。これらは、いずれも先人たちの手により今日まで伝えられてきた貴重な文化であり、台東区の魅力を形づくってきました。人々は日常生活の中で身近な地域の歴史や伝統に触れ、多彩な文化活動を通じて、地域への誇りと愛着が生まれてきます。幼児期からこれら地域財産等に親しむようにしていくことが大切です。

大切にしたい取組例



地域の専門的な知識を有する方々の参画

「本物」とは、子供の心を揺さぶり、追究に向かわせるような人、もの、ことと言えます。「本物」は、子供の心を揺さぶり、追究に向かわせます。自ら考え、追究していく子供を育てるには「本物」との触れ合いが大切になります。地域には伝統や文化についての専門知識を有する方々が大勢いらっしゃいます。これらの方々が幼稚園・保育園・こども園や学校の教育活動に参画することやボランティア活動なども保育・教育活動に計画的、効果的に取り入れていくことが必要です。

地域の昔話、民話などに触れる機会の充実

「台東区郷土かるた」などを遊びのなかに取り入れたり、平成22年度版「台東区歴史・文化テキスト」を参考にしたりするなどして、活用できる歴史・文化財産について、幼稚園・保育園・こども園の保育士・教員や小学校の教員が理解を深め、子供たちが台東区の歴史や伝統・文化について触れる機会を充実し、地域社会の人たちと触れ合う体験を取り入れ、子供たちに地域に対する愛着を育てていくことが大切です。



民話の紙芝居

歴史、文化、伝統に関する区内関連施設の活用

社会環境の変化に伴い地域のつながりが薄れてきたことなどによって、区民が地域の文化を知る機会が少なくなってきました。このため、学校や幼稚園などでは伝統芸能の体験やものづくり体験、芸術作品の鑑賞の機会を設けたり、下町風俗資料館において下町の歴史、風俗に関する資料の見学を行ったり、地域の文化に親しむ機会を取り入れています。区内に多くある歴史文化、伝統に関連する施設なども積極的に利用し、子供たちが台東区の魅力に触れるようにしていくことが重要になります。



親子で詠んだ俳句